

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すてっぴあっぷ		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に合わせたSSTプログラム(個別・集団)を考え、取り組んでいる。	・一人ひとりの発達特性を踏まえた上で、子どもの興味・関心、好きなこと等を活動に取り入れている。 ・担当者を中心に全児童の支援内容を全体で把握しており、どの支援者も全ての児童に等しく支援に関わることができる体制の構築に注力している。	・今後も一人ひとりの個性に寄り添って支援計画を作成し実施する。 ・職員全員で定期的な会議を行い、全員が意見やアイデアを出しやすくなるよう、話し合いの機会をより増やしていく。
2	室内だけでなく、屋外での活動も多く取り入れ、様々なことを経験できるようにしている。	・主に長期休暇時にお出かけやお買い物などの活動を取り入れ、公共でのマナーを知ったりお金の払い方などを学んだりと、様々な経験ができるように取り組んでいる。	・現在は職員が考えるプログラムに取り組んでもらう形が多いので、今後は子どもたちが主体的に活動を考え取り組めるような機会をつくってきたい。
3	活動プログラムが固定化されないように工夫している。	・外部、内部研修や見学を適宜行うことで得た知識やスキルを現場に活かしながら、事後の振り返りや改善を職員全体で行うことで活動内容を見直し、必要に応じて更新している。	・外部、内部研修や見学を継続することで、情報を更新し、より効果的な療育に取り組む。 ・恵まれた自然環境を活用した四季折々の個別・集団活動を取り入れる。
4	法人内に就労継続支援B型事業所があるため、就労体験ができ、高校卒業後の支援にもつながる。	・高校以上になると、卒業後を見込み、長期休暇時に就労体験支援を実際の事業所で行っている。	現在、地域の行事などにも参加しているが、今後も引き続き参加する予定。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービス支援計画内容が日々のどの支援内容とリンクしているのかが、保護者に認識されにくい。	保護者への専門的支援の実施内容や日々の取組内容についての伝達時間の確保ができていない。	・支援プログラムの具体的な活動風景や利用者の成功事例等を写真と共に発信することで、視覚的にタイムリーな情報を保護者に提供し、信頼関係を構築する。 ・LINEの活用により、保護者との連携強化を図る。
2	事業所が行っている支援内容が一部の保護者に情報発信できていない。	個人情報の観点から、ブログ、インスタなどの情報を発信するツールを利用していない。	SNSの活用について、正しく学び、どのように情報を発信していくか検討する。
3	避難訓練の周知ができていない。	定員の問題もあるため、避難訓練の実施日が事前に伝えられておらず、参加できる利用者が限られてしまう。	安全計画により防災月間を年2回とし、事前に避難訓練のお知らせを行う。